

東海支部の活動内容の紹介

東海支部支部長 田中宏和 (たなか ひろかず)
静岡大学情報学部

1. はじめに

東海支部は、自動車、輸送機械を中心にモノづくりの盛んな産業集積地域に位置しています。東海支部の会員は大学人と産業人から構成されています。大学人は、教育と研究が主たる関心事であるのに対して、産業人は新規事業の立ち上げや既存事業の生産性と付加価値を高めることに関心があります。そこで、東海支部では、大学人と産業人が共に Win-Win の関係になることを常に意識し、「実践を理論化する」と「理論を実践化する」を車の両輪とした支部活動を目指しています。そして、支部会員に限定した閉じた活動を行うのではなく、外部のさまざまな組織とオープンに連携した活動を心がけています。そのいくつかをご紹介します。

2. 活動の紹介

(1) ポスターセッション (学生研究発表会)

毎年3月に行っています。その目的は、経営情報関連の研究を行っている学生に成果を発表する機会を設けて、有識者とのアドバイスをもとに研究・プロジェクトへと発展させることにあります。優秀者には表彰状を授与しています。

この発表会の特徴は、静岡大学情報学部の後援を得ていることと、修士論文・卒業論文などの研究論文に限定せず、学生が自主的に行っている地域貢献プロジェクトも応募できる点が特徴です。過去2回行った発表会には、静岡大学学生団体「静岡ビジネスクラブ」が行っている「小学校向けプログラミング講座」が受賞しています。

(2) ITC 中部との連携

ITC 中部は中京地域の IT コーディネータを組織化した団体であり、主に中小企業に対して企業経営に最適な IT 投資を支援・推進する活動を行っている団体です。

東海支部は、ITC 中部と連携しています。具体的には、ITC 中部が行っている事業「実践道場」では、顧客企業の現状分析を行うフェーズにおいて「組織診断アンケート」を提供しています。組織診断アンケートは、経営学の理論をベースにオリジナルに開発したもので、企業の組織力の強みと弱みを分析できる内容になっています。アンケート結果は、東海支部において研究目的であれば活用できるようになっています。

(3) 人間尊重のマネジメントの心理・行動的側面研究部会との連携

東海支部ではモノづくりの産業集積地に立地している利点を生かし、モノづくり企業の付加価値を高めるイノベーションをテーマにしています。技術寄り、形式的なアプローチよりも、経営情報学の立場から、人間系を中心に置いたアプローチを指向しています。ここでは、組織論、モチベーション論や人的資源管理論等の経営理論と IT 技術をどのように絡めながら、しかも実践に役立つ理論を生み出し実践していくことが目標となります。

そこで、「人間性尊重のマネジメントの心理・行動論研究部会」と連携し、人間中心のイノベーションはどうあるべきかをテーマに、部会との共同開催や部会会合の案内を相互に行うなど交流を行っています。



3. 今年度の支部活動

東海支部の活動を活性化するには、産業界との連携が不可欠であると考えています。今年度は、モノづくり企業を対象にした生産管理に関するワークショップを開催する企画を練っています。浜松では、IT企業の集まりである「浜松ソフト産業協会」、名古屋では板金企業の集まりである「プロフェクト」と連携し、ワークショップ形式の研究会を合同で開催する予定です。



4. さいごに

東海支部の会員は少ないのが現状です。会員数を増やすには東海支部の活動をいままで以上に大学人、産業人の双方にとっての魅力を高める必要があります。そのためには、地域のさまざまな団体とコラボレーションした支部活動を行っていくことがその方策になると考えています。

